

東京都食品ロス削減パートナーシップ会議

(第9回)

会議録

令和2年9月11日

東京都環境局資源循環推進部

(午後 1時31分 開会)

○渡辺座長 渡辺です。

定刻となりましたので、ただいまから「東京都食品ロス削減パートナーシップ会議」(第9回)を開会いたします。

委員の皆様方には、お忙しい中、御出席くださりありがとうございます。

それでは、まず事務局から連絡をお願いいたします。

○茂野資源循環計画担当課長 4月から、資源環境推進部、資源循環計画担当課長を務めております茂野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず始めに、当会議は今回初めてWEB開催となりますので、まず委員の皆様にご発言される際の手順を御説明したいと思います。

まず、会議の画面の下に幾つかボタンが並んでいると思いますけれども、会議中は通信負荷を下げるためにマイク及びビデオ機能をオフにしてくださいようお願い申し上げます。また、御発言をする際は、このマイクボタン、ビデオボタンをオンにしてください御発言をお願いいたします。

なお、発言終了後は、再度マイクボタンとビデオボタンをクリックしていただきまして、機能をオフにいただければと存じます。

また、御発言に当たっては、まずチャット機能を使っていただき、お名前と発言希望というふうに入力していただきまして、こちらのほうまで送信してください。チャット機能は画面の下側の吹き出しのところをマークしていただきますと出てまいります。進行側で発言希望の委員を御確認して御指名をさせていただきます。また、そのほか事務局宛てに連絡事項がございましたら、このチャット機能にてお知らせください。

これより、再度確認でチャット機能のテストメールを送信しますので御確認ください。

なお、傍聴の方は、発言やチャット機能の御利用をお控えしていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

次に、本日の出席状況について御報告いたします。本会議におけます委員総数は20名で、ただいま17名の方に御参加をいただいております。委員総数の過半数に達していることを御報告申し上げます。

本日は、小林委員、三田委員、柿野委員は御欠席でございます。

また、本日初めて御出席される委員が3名の方がいらっしゃいますので、御紹介いたします。

まず、一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会、株式会社ローソン、有元委員でございます。有元委員、一言御挨拶いただけますでしょうか。

○有元委員 有元と申します。よろしくお願い申し上げます。いろいろと勉強、意見、いろいろと共有させていただきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

○茂野資源循環計画担当課長 ありがとうございます。

次に、一般財団法人食品産業センター、味の素株式会社、高取委員でございます。高取委員、一言御挨拶をよろしくお願い申し上げます。

○高取委員 高取でございます。

7月に前任の田中から引き継ぎまして、この会議に出席させていただいております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

- 茂野資源循環計画担当課長 ありがとうございます。
- 続きまして、特定非営利活動法人TABLE FOR TWO、土井委員でございます。土井委員、お願いいたします。
- 土井委員 特定非営利活動法人TABLE FOR TWOの土井と申します。前任の安東より引き継ぎました。どうぞよろしくお願いいたします。
- 茂野資源循環計画担当課長 ありがとうございます。
- 最後になりますが、前回の会議の事務局のほうでメンバーの人事異動がございましたので、お知らせいたします。
- 環境局資源循環部、計画担当部長、宗野でございます。
- 宗野資源循環計画担当部長 前任の金子から引き継ぎました宗野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
- 茂野資源循環計画担当課長 私、改めて、資源循環計画担当課長の茂野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
- 事務局からは以上でございます。
- 渡辺座長 ありがとうございます。
- オンラインでの開催でいろいろ不自由なこともあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。
- 私も皆さんもあまり慣れない中で、いきなり半年間、オンライン環境で様々な会議等で御苦労されていると思いますが、中でもオンラインとリアル、併存する形での会議というのが一番難しいと思うんですね。なかなか慣れないというか、リアルの発言とオンラインの場の発言をうまく整合させていかなきゃいけませんので、ちょっとタイミングがずれたりすることかと思いますが、先ほど事務局から御説明ありましたように、チャット機能などを使っていただいて発言の御意思を表明していただければと思います。どうしても指されない場合は発声していただいても構わないと思いますので、ぜひ活発な御議論をよろしくお願いいたします。
- それでは、議事に入ります。まず、議題1について、事務局から説明をお願いいたします。
- 茂野資源循環計画担当課長 それでは、議題1、新型コロナウイルス感染拡大による食品ロス削減への影響と提言への反映について御説明いたします。
- これまで、当会、8回ほど開催し、委員の皆様十分に御議論いただいて提言を取りまとめまいりまして、本来であればもう提言として整理されていたところかと思いますが、コロナの感染が続く中、当会議も開催できず、その間、社会経済や食品に係る状況が大きく変化していると認識してございます。
- そうした中、この5月に、前回、第8回の会議の御意見を反映した提言案につきまして、委員の皆様メールにて御意見を頂戴したところでございますが、改めてこのコロナによる変化を踏まえまして、その影響につきまして提言に追記をしております。
- 資料のほうは2から5までとなっております。
- 恐れ入りますが、資料3を御確認ください。画面上でも資料のほうは確認できるようにいたしております。
- こちら、資料3でございますけれども、提言の概要となっておりますので、各主体の

食品ロス削減への取組の方向性がここに集約されているものでございます。これまでに御議論いただきまして取りまとめた提言にコロナによる影響を踏まえ、各主体の共通のところから、事業者編、消費者編、それから行政・NPO編、それぞれ提言1から8までございますが、赤字で方向性を追記させていただいております。この追記の要因、背景となります社会状況の変化と、それを踏まえまして追記いたしました方向性につきましては、資料の2でまとめさせていただいております。

なお、恐れ入りますが、資料2のほうを御確認ください。資料2につきましては、食品ロス削減の観点あるいは視点からまとめておりまして、データ等につきましても、このコロナの全ての事象を包含しているといったわけではないことをあらかじめ御了承いただければと存じます。

はじめに、経済情勢の変化となりますが、世界経済と同様、コロナの影響は日本の経済にも大きな影響を与え、4月から6月の実質GDPは年率換算でマイナスの27.8%というところになってございまして、日本の食のサプライチェーンに係る多数の企業の業績が悪化したといった認識でございます。

参考資料1を御確認ください。

こちらは、2019年4月と2020年4月を比較しておりまして、売上が減少した企業の割合でございますが、全体の8割以上となっております。飲食店さんとか卸売・小売業さんも軒並み売上が減少したといったことになってございます。

さらに、参考資料2を御確認ください。

外食全体の売上が、この4月・5月に大きく落ち込んでございます。特に紫の線のパブレストラン/居酒屋さんといったところは、夜の街といったところは大きく落ち込んでいるといったところでございます。

戻っていただきまして、また社会の仕組みですとか産業構造も変化して、これまでの常識が大きく変わったと考えられます。例えば通勤や会議の仕方ですとかリモート、分散化などが進みまして、またそうした変化はサプライチェーンまで及んだというふうに考えられます。外出自粛による業務用の食品の需要が落ち込んだりですとか、一方で家庭用の食品の需要が急増するなど、配送のオペレーションへの負荷が増大したと認識してございます。また、雇用調整等によりまして社会的格差も拡大し、未利用食品の需要が高まったりですとか、フードバンク関連の報道も増えたといったこともございました。

参考資料の4を御確認ください。

飲食業におけます解雇等の見込みでございますけれども、8月の下旬までの集計で7,000人に達しているといったところでございます。

また、参考資料5につきましては、生活保護の申請件数あるいは開始世帯数といったところが、昨年4月と比べまして2割、それから1割以上、伸びているといったところでございます。

次に、安全・安心志向の高まりに起因する消費行動の変化となります。重なる事例もございましてけれども、外出自粛やテレワークなどにより自宅で過ごす時間が多くなり、家での料理、食事の機会が増加したり、食料品の備蓄ニーズが高まったといった動きもあつたかと考えてございます。

参考資料の6を御確認ください。

左側の図になりますけれども、自宅で過ごす時間、それとか家族と一緒に過ごす時間、こちら双方とも増加したといったところが、オレンジの横棒のグラフになってございまして、幅広い年代の方に及んでおりますけれども、4割から6割増えたといったデータもございまして。また、働き方ですとか暮らし方も変化が及んでいるといったところもございまして。テレワークやオンライン化などによる非接触志向の動きですとか、オンラインなどを活用した販売、医療といった部分も見られたかと思っております。また、食に係る部分でも、ネット販売の利用が大きく増加した部分もございまして。

参考資料の8、こちらオンライン消費の拡大でございまして、ネットショッピングに係る支出額が、1年前に比べまして2割増加しているといったところもございまして。また、そこに係る寄与度は、食料でいけば10%程度という形になってございまして。

また、参考資料9のほうでは、これは食事宅配アプリのユーザー数でございましてけれども、この2月、3月で、特にこのウーバーイーツが今どこでも見かけるようになってきてございましてけれども、この1か月で約31万人、増えたといったデータもございまして。それから、出前館、楽天デリバリーについても、10万人から15万人弱、それぞれ増えたといった動きが出てきてございまして。

また、社会変化の部分になりますけれども、改めてサステイナビリティへの意識が高まったり、コロナ禍で苦しい状況にある人を助けたいといった社会貢献意識が高まりを見せてきたと考えてございまして。そうした動きは、例えば学校の休校により余った給食の食材を引き取る団体さんが現れたりとか、困っている生産者をマッチングアプリ等を使って直接支援するといった動きも出てきているところもございまして。

次のページは、こうした状況の中で、顕在化した食品ロス削減への課題と、右側はそれに対応すべく提言に追記した方向性となってございまして。

まず、共通部分でございましてけれども、コロナ禍による新たな社会の中でも食品ロス削減の取組は、サプライチェーン全体での取組が欠かせないという認識でございまして、そのことについては資料4、本編をちょっと御確認いただければと思っております。

こちらは、提言1の各主体の食品ロス削減に向けた連携といった部分になってございまして、12ページとなります。ここに、方向性の①各主体の連携の中で、「コロナ禍の影響による新しい生活様式の転換を含め」と、13ページまでちょっとかかってございましてけれども、「事業者、消費者、行政・NPO等が抱える課題や役割を理解し」といったところを追記させていただいてございまして。

事業者のところになりますけれども、安全・安心志向の高まりから人との密集を避けるといった観点からも、デジタル化等の新たな技術の導入による対応が期待されるといった認識でございまして、そのことにつきましては本編の提言2のところになります。提言2は製造・卸・小売・外食で発生する食品ロスの削減といったところになってございまして、方向性の④先進技術の導入の下から2番目のところ、「食品ロス削減への効果が期待されるだけでなく、コロナ禍で求められる非接触や密集を回避する観点からも、将来的な導入を視野に入れるべきである」を追記させていただいております。

事業者の二つ目としまして、コロナ禍での経験を踏まえ、効率性と安全・安心を充実したサプライチェーンの構築が必要ではないかといったところにつきましては、本編の

提言3、21ページになりまして、提言3がフードサプライチェーン全体での商習慣等の見直しといったところになってございます。その方向性の①でございます。3行目のところから、「また、コロナ禍では更なる物流の効率化が求められている状況にある」といったところを追記してございます。

次に、消費者のところになります。余った食材をオンラインを通じて購入する流通モデルの定着が期待されるといったところにつきましては、本編の提言4のところになりまして、24ページでございます。売れ残りや食べ残しを防ぐ賢い消費選択のところになりまして、方向性のところの①アプリ等のサービスの活用となっております。2行目からですが、「消費者に商品を店舗に取りに来てもらうサービスや行き場を失った食材のインターネット販売等の取組が始まっている。コロナ禍で一定程度活用は進んでおり、消費者もこのようなサービスを積極的に活用する」といったところを追記させていただいてございます。

もう一つの、ネット販売やテイクアウトなど今後も利用拡大が見込まれる新たな消費スタイルの対応ですとか、家庭での食事の機会の増加により家庭内でのロス増加の懸念等につきましては、本編の提言5になりまして、こちら家庭における食品ロスの削減のところでございます。方向性の②でございます。食品ロス削減行動の習慣化といったところで、こちら前段で買物前のストックチェックの習慣化ですとか、または余ってしまった料理のリメイクなどの工夫がかっこいい、楽しいといった食文化をつくる観点から行動するべきといったところが前段にありまして、そこから、「こうした取組の重要性は、コロナ禍においても同じであり、自宅で料理する際は作りすぎない、食材を使い切る工夫をする、インターネット販売を利用する際も実店舗の買物と同様に買いすぎない、テイクアウトでも店舗での飲食と同様に食べ残さないといった具体的な取組が浸透していくことが重要である。」といったところを記載させていただいております。

最後に、行政・NPOのところになります。

イノベーションが加速する中、効果的な削減手法の掘り起こしですとか、それをまた社会実装することが求められることにつきましては、本編の提言6、31ページになりまして、こちら事業者との連携及び取組支援といったところの方向性の⑤になります。「コロナ禍の影響により社会全体でデジタル化による効率化が一層求められる中で」といったところを追記してございます。

それと、普及啓発などのために実施する人を集める従来型のイベント開催が困難といったところにつきましては、提言7の34ページのところになりまして、方向性の④でございます。「新たな生活様式に転換する中においても」、ちょっと中段を飛ばさせていただきまして、「イベント開催や冊子作成のほか、感染防止に配慮するため、ホームページ等オンラインを活用した情報発信などを通じ」と、ここを追記してございます。

最後に、食を通じた社会連帯や支え合いの醸成が求められることにつきましては、提言8の自治体との連携のところでございます。37ページのところでございます。あるいは、④防災備蓄品の積極的な有効活用、ここはコロナ禍でフードバンクの重要性が高まっている中、自治体の中にはフードバンクとのつながりがないことから、フードバンクの活用にちゅうちょしがちであるといったところから活用を促していくという意味で、一定の賞味期限前に買い替えた備蓄食品をフードバンク等へ提供するため、利用の際の

留意点等を参考として示すなど積極的に有効活用を図るべき」といったところを追記してございます。

今、御説明を申し上げたこの本編の各提言の方向性の部分が、先ほどの資料3の概要案のところに赤字で記載しているものでございます。

長々と申し訳ございませんが、最後に資料5、今後のスケジュールでございます。

本日、11日が第9回のパートナーシップ会議で、「食品ロス削減に向けた提言（案）」について御議論いただくといったところになってございます。10月の下旬に、できれば第10回目のパートナーシップ会議を開催しまして、提言を決定していきたいというふうに考えてございます。それから、年が明けまして1月の中頃までに「東京都の食品ロス削減推進計画」、こちらを私どものほうで作成して、皆様の意見を伺ってまいりたいというふうに考えてございます。それから、パブリックコメントを経まして、3月の下旬には「東京都の食品ロス削減推進計画」の決定と公表を進めていきたいというふうに考えてございます。

長くなりましたけども、事務局からは以上でございます。

○渡辺座長 ありがとうございます。

本日の議題はこれ一つですので、残されている時間、1時間程度ありますけれども、こちらの提言についての議論をしていくということになりますので、よろしく願いいたします。

半年ぐらい前に公表するはずだった提言案と、形式的にはかなり同じような形になっていますけれども、この半年のコロナの状況を踏まえて、構成は維持をしつつ必要な加筆・修正を施していると。その加筆・修正した部分を中心に事務局から御説明をいただいたというふうに理解しています。

それでは、発言のある方は、先ほど事務局から案内がありましたけれども、チャット機能をお使いいただいて、発言ありますというような書き込みをいただく、意思表示をお願いいたします。

これ、オンラインの授業でもそうなんですけども、どれぐらい待てばいいかというのがよく状況が分からないので、すみません。はいとか、＼とか、簡単に入れていただくか、もしなければ、特に私からというのがありませんでしたら、順番に御意見をいただくことになっていきますけれども。

辰巳委員、ありがとうございます。早速よろしく願いいたします。

○辰巳委員 辰巳でございます。音声大丈夫でしょうか。

○渡辺座長 はい、聞こえております。

○辰巳委員 あまり静かだから何かお話ししたほうがいいかと思って。

○渡辺座長 ありがとうございます。

○辰巳委員 そういうレベルなんですけど。

思ったことですが、今回の提言案の中身、細々ではなく、大きな筋として、東京都が出していて、東京都の案なんですけれども、資料とかいろんな社会の傾向とか、そういうのは日本全体のお話のような気がしております、東京都であるというオリジナリティーなところがもうちょっと明確になると良いのではないかとというふうに思ったということです。

そんなことを言われても今さらって感じかと思えますけれども、ただ、東京都がほかの他都市と違うところというのは、冒頭のところにはかなり書かれていて、大都市であるとかいろんな状況が書かれていて、あと事業者がたくさんいるというふうなお話もあると思うんですが、何かもうちょっとできないかなと思っただけです。

以上です。よろしくお願いします。

○渡辺座長 ありがとうございます。

現状分析であるとかデータであるとかのところだと思うんですけども。

○辰巳委員 そうそう、そうなんです。

○渡辺座長 どうですか、そのあたり、さらに東京都に特化したデータを取ることは、事務局は可能ですか。

○辰巳委員 だからといって、こうしたらいいという提案があって申し上げるべきだと思うんですけども、それもないままに印象だけなんです。すみません。失礼しました。

○渡辺座長 いえいえ、ありがとうございます。

確かに、都としてどれだけ東京都の特化した状況をつかんでいて、さらに出せるものがあるのかということで。検討しますでもいいと思うんですけど。

○宮澤資源循環推進部長 座長、よろしいでしょうか。

○渡辺座長 お願いします。

○宮澤資源循環推進部長 資源循環推進部長、宮澤でございます。本日はありがとうございます。

ただいまの御意見、ありがとうございます。今日掲げたデータは、基本的に全国データで、これのなかなか東京都だけの内訳数字というのがないもので、これを東京都版でブレイクダウンするのはちょっと厳しい状況ではございますが、出す資料として、今ちょっと私が考えましたのは、東京都、例えば23区の、この間の清掃工場へのごみの搬入量の推移というのがございまして、結構これが面白いデータなので、ちょっと御紹介させていただきたいと思えます。

例えば、コロナ禍で外出自粛が強く求められていた5月のデータなんですけど、昨年と同月比、5月と比べますと、23区の区で収集している部分、つまり家庭から排出されるごみについては10%増えたというような実績がございました。それに比べまして、持ち込みごみといたしまして、逆に事業所、レストランとかホテルとか、あとはオフィスビルとか、事業活動から出されるごみについては昨年比57%ということで、もう半減しているというような、物すごい大きな現象を見たというような傾向がございました。家庭が増えて事業系が減って、トータルでは大体10%減、90%ぐらいというのが5月のデータだったというような数字がございます。

これが6月、7月と徐々に回復してきておりまして、つまり家庭については平年並みの105%、直近の8月ですと102%ぐらいまで、平常に戻りつつあるんですけど、オフィスのほうも57%から今77%ぐらいまで増えてきているということで、トータルで、8月で見ますと昨年比7%ぐらい減の93%というような数字がございます。したがって、これちょっとストレートに食品ロスとは結びつかない部分もあるんですけど、コロナの影響が直接ごみの量にも影響しているというようなデータがございまして、このような形で、何らかの加工修正をかけた上で提供することは可能と考えております。



以上でございます。

○渡辺座長 ありがとうございます。

○辰巳委員 辰巳ですけど、いいでしょうか。

○渡辺座長 はい、お願いします。

○辰巳委員 私、すごくそのデータは面白いというふうに思います。やっぱり実際に数字にその変化が表れてきているということの証拠にもなるというふうに思うので、今お示しくださっている最初のところ、東京都の様子を書いているあたりにも、もう少し追加していただけるといいかなと思いました。ありがとうございます。

○渡辺座長 ありがとうございます。

確かに家庭のごみと企業からのごみ、非常に対照的な動きをしているというのはこの間の特徴だと、書き込むべきデータだと思います。

それ以外にも、例えば飲食とか小売とかの日本の数字は出ているんですけども、これ都に特化してというデータは取れるんですかね。難しいですか。

○茂野資源循環計画担当課長 今し方ちょっと申し上げたごみのところは、直接、清掃工場に持ち込まれているというところのデータがあるんですけども、それぞれの各自治体様のデータというところは、ちょっと残念ながら今のところは持ち合わせていないと。ただ、国のほうもいろいろ発表しているようでございます。もしあれば、そういったものの活用していきたいというふうに考えてございます。

○渡辺座長 ありがとうございます。そのあたりをちょっと補強できるデータがあれば補強して、全国の状況に対して都の状況はこういう状況にあって、それだから都としての取組を進めていかなければならないというような説明の仕方はできるのではないかと思います。

ほかにいかがでしょうか。

国友委員、お願いいたします。

○国友委員 こんにちは。御無沙汰しております、皆様。

これ拝見しまして、もうこの提言に関しましても、3年近く皆様と討議させていただいてきましたので、やっと発表できるのかという状況かなと思っているんですけども、今、コロナ禍において変化したことを追記するのであれば、コロナになったことで予期せぬいいことと悪いことがあったかなと思っているまして、予期せず、実は提言の中に入れていた要素の中でも進んだものと、多分予定してなかったけれども、もうちょっとケアが必要なんじゃないか、例えば今、ごみの家庭ごみが出ていくところも増えたというところは、多分、事業者様向けの提言というよりは、消費者の方々に対しての提言をもう少し厚くするとか、あとはごみを削減するというか、食品ロス削減というテーマにおいての提言にとどまっているので、最近やっぱり、この3年間の間でも、またコロナになってからでも、サステナブルな志向が高まっている世の中に対して、これを提言するときに、食ロス削減だけではなくて、食ロス削減の周りには、例えば子供の福祉の問題だったり、廃プラの問題だったり、いろんな問題と共同して解決していくという視点も持ち合わせていくことが必要ですよみたいな、何か一言はつけ加えたほうが、私は今の時代の潮流に、今ここで提言として発表する意義があるんじゃないかなと思っているのが1個です。

あとは、すごい細かいんですけれども、提言8のところの自治体の連携のところなんですけれども、たまたま私が最近そういう事業をちょっとやらせていただいている関係もあって、市区町村とフードバンク様が連携するということも、促進というところに限って言及しているんですけど、多分フードバンクの活用だけじゃない、もっと地元密着型の食品産業様と、そういった福祉団体とのネットワーク形成というの進めていかなければいけないんじゃないかなと思っているので、フードバンクだけに言及するのがいいのかなというのは、ちょっと疑問に思った次第です。

以上です。

○渡辺座長 ありがとうございます。

お願いします。

○宗野資源循環計画担当部長 計画担当の宗野でございます。国友委員、ありがとうございます。

一つ目のサステイナブルな動きですとか、社会福祉の分野との連携といったところについて触れたほうがいだろうというような、そういった大きな視点を入れたほうがいだろうというようなことでありますので、各段階のところじゃなくて共通のところ、大きな視点も持った形にできないかなというふうに、検討したいと思います。

あと、二つ目の自治体のほうで、フードバンクと連携しているという部分じゃなくて、もう少し広がりを実際には出てきているのだということのようでもありますので、そういうものもどんどん広げていかないと、国友委員がおっしゃるとおり、そういう地域での活動というものは、ますます広げていかなきゃいけないと思いますから、そういった趣旨のことも追記することを検討していきたいというふうに思います。

以上です。

○渡辺座長 ありがとうございます。

国友委員、いかがですか。

○国友委員 昨日もたくさんお話ししたので、多分、御理解いただけているかなとは思っています。ただ、結局、これから発表するという事なので、今発表するという事と言うと、今の潮流に合わせてちゃんと提言をすべきかなと思ったときには、やっぱりつけ加えていただいたほうがいいかなと思ったので、1点目をお話ししたのと。

2点目は、フードバンクさんはもちろんですし、各企業さんも結構フードドライブとか、いろんなお取組をされているので、そういったことを自治体も企業も含めて全部連携して進めていくというのをもうちょっと加速化させていけるような、何か働きが必要なんじゃないかなと思ったので、ちょっとお話しさせていただいたので。ありがとうございます。

○渡辺座長 ありがとうございます。非常に貴重な、重要な御指摘だと思います。

前半の1点目の御指摘に関連して言いますと、今回の提言が、提言8の構成そのものが今までもずっと見てきて、微修正、微修正で重ねてきたものが、何となく委員の皆さんは見飽きたというか、またかみたいな感じになると思うんですけれども、実はいろいろ書き込んでいますと。コロナの下でどう変わったのかというのが、もうちょっと分かりやすく、コロナの下で予期せず、国友さんの言われたような言い方で言えば、予期せず進んだものと、逆に悪化しちゃったものみたいな形で、特出しして書くようなこと

もあってもいいのかなというふうに、話を伺っていて感じました。

コロナで環境変化したという部分は、分析のところで、前段で事務局に書いていただいているんですけども、そこにあわせるような形で対策、提言の内容についてもコロナの下で、こういう点により重点が置かれるとか、消費者の状況がこういうふうに変ってきているので、それをより促進するような、サステイナブルな方向をより目指していくであるとか、福祉の問題と廃プラ、プラスチックごみの問題とかも非常に大事だと思いますので、そういったところを併せて、前段でコロナの下で変化したものという形でまとめてもいいのかなという感じがしました。

多分、国友さんの発想で、もちろんそういう現状に合わせて、より分かりやすく打ち出すべき点はしっかり打ち出すべきだというお考えだと思いますので、そこはちょっと参考にしていただければと思います。ありがとうございます。

ほかは。では江崎グリコ、田中さん、お願いいたします。

○田中委員 今日はお疲れさまです。

今、国友委員さんのお話も伺いながら、例えば、ごみの問題、今日も全国清涼飲料連合会の方もお見えになっていますけれども、やっぱりペットボトルとかをリサイクルしようと思って、自動販売機の横にごみ箱が置いてあるわけですが、そこにいろいろなごみが今投げ込まれているということで、飲み残しもありますし、たばこの吸い殻をペットボトルの中に突っ込んで、それをまた自販機の横にあるごみ箱に突っ込んだりとか、あと、最近はやりのコンビニエンスストアのアイスとかコーヒーとか、そういったものの飲みがらを自販機の横のボックスに捨ててしまう。それを分別する時点で、自動販売機の飲料を補充しに来たベンダーさんがそれを回収して、トラックで持ち帰るわけですが、コロナウイルスに接するリスクがやっぱり増えてしまうんじゃないかというようなどころでは、本当に国友委員の御提言を、資料3の提言の概要案というところでもし見るとしたならば、消費者編というところがありますね。この消費者編というところ三つ、アプリなどのサービス、賢い消費選択、持ち帰りの定着とありますけれども、ここにもう一つ増やして、うつさないとか感染させないとか、何かそういった項目で、コロナについて、ごみの捨て方一つで、それを集めてくださっている方のリスクを上げてしまうことがあるんだよというようなどころも組み入れていただいて、自販機の横のごみ箱もさることながら、分別回収している清掃局の現場とかも、非常にごみ収集の際にそういうリスクにさらされているというようなどころもやっぱり重要なのかな。食品ロスというのは、ごみと非常に密接に絡んでいるイメージもあるところですので、ごみを出さないという、もったいないをなくそうねということも今までは大事だったんですけども、このウィズコロナの時代、あるいはアフターコロナに向けて、コロナウイルスに感染させないためにというようなどころも、ごみの捨て方に関する部分も、消費者については御理解いただきたいよなというところを入れ込んだらいいんじゃないかなというふうに今お伺いしながら思いました。

あと二つありまして、この今挙げていただいている提言の事業者編のところ、このサプライチェーン全体の課題をいろいろと挙げていただいております。本当にまとめていただいて、ありがとうございます。やっぱりコロナ禍で難しいなと思うのが事業予測情報ですね。小売業様からPOSデータを参考資料としていただいているケースも多々あ

るんですけれども、営業に聞きますと、ある特定の小売業さんは、残念ながら非常に高価な対価をお支払いしないとPOSデータを分けていただけないことがあって、残念ながら、そこは見込み発注でやっていますとか、そういうようなケースもあるんですね。一方で、お互いに無駄、ムラをなくしましょうということで、非常に協力的に出荷データや今ある在庫を共有してくださって、生産をする私たちメーカーの立場としても、非常にその判断に正確さをプラスしていくような共有といいますか、連携といいますか、そういうようなことができているケースもありますので、今まで提言3のところでありました商習慣の見直し、入荷許容期限とか賞味期限とか、そういったところに今まで着眼してきましたけれども、今後はまた一步成長して、本来の意味で、本質的な意味でサプライチェーン全体の最適化のために協力を要請していただけるような機運を、この食ロス削減のために集まった委員の母体を始め、広くそういう流れができていったらいいんじゃないかなというふうに思います。

提言2と提言3のところですけども、提言2のところは予測情報の共有化というふうに書いてくださっていますけれども、さらなるPOSデータであったり、あるいはそれぞれのセンターの在庫であったり、そういったところを共有化していきたい。

あともう一つ、悩みは、フォームがばらばらなんですね。A卸さん、B卸さん、C卸さんとあると、それぞれまた全然違います。それから、POSデータに関しましても、小売業さんによって全然違うわけですね。グロッサリーというふうに書いてあるけれども、グロッサリーの中には実はパンも含まれているところもあれば、含まれてないところもあったり、アイスクリームまで含んでいるところもあれば、もちろん含まれてないところもあったり、いろいろ多々あるので、何かその充足をするためのデータをどこか客観的なところが、いろいろな小売業様、いろいろな卸店様が出してくださる情報をみんなが簡単に使えるようにするための仕組みができていったら、より一層そういう充足の精度というのが上がっていくんじゃないかなというふうに思ったので、そういったところを提言2のところには入れていただけるとありがたいなというふうに思った点。

それからあと、提言3のところは、もうコロナ禍特有の商慣習の、私たちの菓子全体の会議があったときに出た話の中には、一部、残念ながらコロナ禍で配送がうまくいかなかったとき、あるいは生産ラインのメンバーが集められなかったときに、残念ながら注文に応じることができなかった。そのときに欠品ペナルティーの話が出たというようなこともありまして、そういったところ、コロナ禍で今みんな、メーカーも卸様も物流様も小売業様も、みんなとても苦しんでいる最中であることは間違いないので、そういうところは、みんなで連携して、お互いに思いやりを持ちながらの商慣習に、そういったフードサプライチェーンになっていただけたらいいなというふうに思いました。

あと、ちょっと資料が変わるんですけども、資料4の詳細な内容のほうの38ページ目なんですけれども、38ページ目に④とありまして、防災備蓄食品の積極的な有効活用というようにところに触れていただいております。私たちも今までビスコであったりカレーであったり、そういった防災備蓄食品を発売してきましたが、最近は6か月の賞味期限しかない乳児用の液体ミルクを発売いたしまして、被災した場合に困っていらっしゃるお母さん、あるいはお父さん、小さい子供、乳飲み子を抱えていらっしゃる親御さんに対して、お役に立てていただければということで御提案を差し上げております。23

区内でも、ここに書いていらっしゃるようなローリングストック方式で備蓄量を調整しながらやっていらっしゃるのところ、今日、花澤さんもお見えになっていますね、国分のOBのヤダさんがリボンセンターというのを立ち上げまして、もったいないをさらに減らすように、賞味期限前に在庫を移動して、病院関係であったり学校給食であったり、そのの食堂であったり、そういったところに賞味期限が近づいてしまったような防災備蓄食品を有効に使おうというような動きを見せていらっしゃるってして、進化しつつあるんですが、区によって、あるいは東京都の中の市によって、お考えが違うんですね。ですので、できるだけ、これは東京都の話、会議ですので、東京都内の自治体さんの中で、ここの自治体さんはこういう工夫をされていますよとか、こういうローリングストック方式を導入されましたよとかというようなこと、私たちは商談レベルでお話しさせていただいているんですけども、オフィシャルな機関、ぜひそういった食ロス削減のためという意味に直接なってくると思います、そういうローリングストック方式を導入されているところは。あと、フェーズフリーとか、いろいろな言葉が新しく出てきていますけど、そういったフェーズフリーであったり、ローリングストック方式であったり、そういったところを消費者のみならず、自治体さんレベルでもやっておられるようなところをぜひともクローズアップしていただいて、水平展開、横への展開が一層進むようにしていただけるような内容も、この案の中に盛り込んでいただけるとありがたいなというふうに思いましたので、意見のほうをさせていただきます。

以上です。

○渡辺座長 はい、お願いします。

○宗野資源循環計画担当部長 田中委員、ありがとうございました。

四つ意見をいただきましたけれども、一つ目のコロナということで、まさに感染拡大、食との関係ですから、そういった観点のことも入れたほうがいいんじゃないのかということがございました。確かにそういう面あると思いますので、新たな項目として起こすのか、追記する形にするのか、御相談しながら、そこについては対応させていただきたいと思います。

あと、二つ目の需要予測でございますけれども、私ども、田中委員がおっしゃるとおり、そういう情報共有、需要予測という手法が、食品ロスの削減に大きな効果があるというふうに認識しておりまして、今年も予算がついておりまして、2件ほど需要予測の実証事業をまさに始めようとしているところでございまして、そういうものが実際の課題みたいなこともきちんと分析をいたしまして、その上で社会実装のほうに進めていくように、できるだけ広がるようにということは考えているところ、東京都のほうでも予算で、実際にやっているところでございますので、そういった点をもう少し提言2のほうに書き込みたいと思います。内容についてはまた御相談させていただきたいと。

三つ目の欠品ペナルティーで苦しんだというようなことがございましたけれども、今回のコロナのことで、いろいろなことが課題として浮き彫りになった部分があると思いますので、そういうことだから、やはりお互いの、相互の連携した取組ということが重要なんだということをもう少し実態、どういうことがあったということをもう少し提言3のほうに、そこも書き加えたいと思います。

また、四つ目の防災備蓄のところについては、田中委員と意見交換させていただいた

ときに、東京都のほうでも防災備蓄品につきまして予算をつけて、今年、取組を始めたところでございまして、東京都でも防災備蓄品をたくさん持っておりますし、区市もたくさん持っているんですけれども、それがこれまで有効に活用されてきたかというところでもない。最悪、廃棄されていたということで、その区市町村の持っている備蓄品とフードバンクをマッチングしてつなげるという、そのシステムをつくる事業を今年、東京都、区市町村と連携して始めるところなんですけれども、各区市町村さんとそういう防災備蓄品のことについて、情報交換を今年度に入ってやり始めておりますので、一生懸命やっているところとか、田中委員がおっしゃるとおりありますので、そういうものを、いい好事例を横展開していくというようなことというのは非常に大事だと思いますので、その点についても、きちんとそういうことが分かるように書き込みを追記していきたいというふうに思います。

ちょっと長くなりましたけども、以上でございます。

○田中委員 ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

○渡辺座長 ありがとうございます。

若干、私のほうからも補足しますと、1点目のコロナの下でのごみの排出の仕方というのはまず書き加えていただきたいということと、2点目の需要予測につきましては、東京都の実験の話もありますけど、田中委員のおっしゃられた中で大事な点は、データフォーマットの標準化というのが必要だという点だと思うんですけど、都でできることではないんですけれども、そういうような方向性を打ち出すということの必要性は触れてもいいのかなという気がいたします。

それから、3点目のコロナの下での不測の事態で、注文に応じられなかった問題なんですけど、これはコロナに限らず気候変動、台風が急にきたとか大雨が来たとかで納品ができないということも結構あるというふうに聞いていますので、そういう環境が大きく変化している状況の中で、しっかり連携して話し合いをしっかりとしながら取り組むべきことだというような、実際そういうふうにやられているところもあるというふうに聞いていますので、一方的にペナルティーを課すということではなくて連携が、環境不確実性がより高まっている状況であるからこそ、なおさらこういう連携の必要性があるんだということは打ち出してほしいなというふうに個人的には思います。

それから、4点目の防災備蓄食品についても、今、田中委員のおっしゃったことで、おっと思ったのは、基礎自治体ごとに、例えばストックの方式とか受取り方とか結構ばらばらで、出す側、事業者さんからすると、どこそこはこういう出し方で、どこそこはこうでという、かなりばらつきがあるとやりづらいと、それも都と基礎自治体が調整しながら、うまく受け取って、ストックして、またそれを交換するみたいな、そういう流れが都内では標準的な方式として取られると、事業者としてもやりやすいんじゃないかという、そういう御意見だったのかなと思いますので、その辺も御考慮いただければと思います。

よろしいでしょうか。

○田中委員 ありがとうございます。

○渡辺座長 それでは、清水きよみ委員、よろしくお願いいたします。

○清水（き）委員 聞こえますでしょうか。

○渡辺座長 はい、聞こえます。

○清水（き）委員 ありがとうございます。

まず、最初にコロナでつけ加えた新しい章に関してですけれども、コロナの影響といったときに、ウィズコロナなのか、アフターコロナなのかというのがまずあります。ここに書いてくださっているのは大体ウィズコロナの内容が多くなっているのので、少しアフターとか先を見たことも、表現的に入れたほうがよいと思います。もともとの2030年を見据えてということですか、今後つくられる東京都の削減推進計画に向けても、中長期的スパン、コロナを超えたアフターコロナについても少し言及したほうがいいのかと思いました。

それから、提言関連で言いますと、コロナによりデジタル化とか、テレワークなどもそうですが、10年分が1か月で来てしまったといわれるぐらい進んでいる状況ですので、その技術も相当進展しました。提言に、もっとICT化を進めたほうがいい、デジタル技術の活用を進めたほうがいいと、まだまだ先の話のように書いてあったことが、コロナにより背中を押されて状況が変わり、すぐにスタートできる、スピードアップしてできるものも多いと思います。デジタル化を進めよう、構築しようだけではなく、実践できる段階に入っているものはすぐに取り入れて実践するように少し書き分けたらどうかなと思いました。

消費者編については、コロナにより、デジタルの活用、オンラインでの買物や小池知事もおっしゃっていた買い物頻度を減らすまとめ買いもかなり定着しました。家にいる時間が増えて、男性や家族の家事参加も増えて、皆でお料理をする機会も増えていきますので、そういういいことがコロナによって定着する一方、それがごみの量などにも関わってくる。先ほども家庭ごみが増えたという話もありましたけれども。そういうコロナがもたらした変化、例えば、提言5では、こうした取組の重要性はコロナ禍においても同じであると書いてありますが、同じというよりも一層進んだので、もっとこうした方がいいとかコロナのもたらしたことをポジティブな捉え方での書き方も含めて変えたらいかがでしょうか。

もう一点、報告書本体の5ページ、コロナの章の、Ⅲ「新型コロナウイルス感染症の拡大による影響」の節の見出しですが、（2）と（3）は〇〇の高まりとか、意味が分かりやすいですが、（1）は、社会経済情勢が変化する中のフードサプライチェーンとなっていて、タイトルが影響と言っているわりには意味が分かりにくいです。例えば、フードサプライチェーンのレジリエンスの必要性とか、確立が求められるとか、何が影響によって必要か示すような、分かりやすい表現にした方がよいと思いました。

以上です。

○渡辺座長 ありがとうございます。

お願いします。

○宗野資源循環計画担当部長 清水委員、ありがとうございました。

一つ目は、アフターコロナの視点ということでありまして。清水委員がおっしゃるとおりでありまして、これからの提言を受けて作っていかうとしている計画は2030です。その先をにらんだ形の2050まではちょっとあれですけど、そういった長いウィズコロナを抜けたその先のところを見据えた計画を作ろうとしている。それにつながっていくもの

ですから、当然、そういうアフターコロナという観点、今、おっしゃっていただいたような書き方をしていくべきだろうと思います。

あとは、デジタル化のところというものは、清水委員がおっしゃったとおり、デジタル化を進めるのだみたいなことが、5ページのところには割と全体的に日本の国の中がデジタル化という流れの中で、食のサプライチェーンも当然、そういう流れに応じていかなければいけないというレベルで書いていますけれども、清水委員がおっしゃるとおり、すぐできることと、少し時間がかかることはあるのだと思うので、その辺が分かるような書き方にしていく必要があるかなと思います。

あと、提言5のところの家事参加のところは、これはほかの委員からも、座長からも実は言われていたことでありまして、同じじゃないよねと。ちょっと書き方、清水委員が先ほどおっしゃったような形で、消費者の方にやってもらうことを加速するような、ますますやらしてもらわないといけない形になっているはずですので、そういった書き方にしていきたいと思います。

あとタイトルも、指摘いただいたようにレジリエンスという言葉、少し難しい言葉かなとも思いますけども、レジリアンスでもいいと思いますし、もう少し分かりやすい言葉があれば、その辺も工夫していきたいというふうに思います。

ありがとうございました。

○清水（き）委員 はい。よろしく申し上げます。

○渡辺座長 ありがとうございます。

事務局として、書いているつもりでも、うまく反映されていなかった部分など、客観的に読んでいただいて御指摘いただくと、より明確に主張が出てくるのかなと思いますので、非常に貴重な御指摘だったと思います。

ほか、いかがですか。

こちらの会場、隣で工事が始まったみたいです。聞こえますか。大丈夫ですか。

それでは、特に御発言の御希望もないのですので、今まで発言されていない方に順番にそれぞれ御感想など、簡単で構いませんので、御意見、御感想などを御発言いただきたいなと思います。

それでは、名簿の順番で恐縮ですけれども、指名させていただきます。

阿出川委員、いかがでしょうか。

○阿出川委員 阿出川です。聞こえますでしょうか。

○渡辺座長 はい。聞こえます。

○阿出川委員 事務局の方、大変な事態の中で、これだけの御提案をまとめていただきまして、ありがとうございます。

今回、我々、小売業の立場からすると、コロナの影響というのは逆に少なく、売れたお店が非常に多かったというのが我々業界の認識なのですけれども、ただ一つ、コロナになってとても思ったことが、小池都知事が発言したことによって、国民の方が大きく反応して動いてしまうということが明確に分かったということで、例えば、こういったロスの話についても、誰か非常に影響力のある方が積極的にやるのだと、そういった発言をすることによって、多分、日本の国民というのは非常にそちらに動きやすいというのが今回のコロナで分かったことではないのかなというふうに思います。実際に北海道



の西浦先生、8割おじさんというふうによく言われていましたけれども、あの方が8割移動するのを制限すると、これだけの結果がなくなって、いい結果になりますよと言って、実際にそうってしまったので、非常に影響力があるのかなというふうに思ったのですけれども。例えば、こういった食品ロスの問題についても、日本はそんなに影響はないと思うのです。諸外国にしてみれば、食べ物がなくて命を絶たれている子供がいっぱいいるという話ですので、そういった実際に命に関わる問題なのだ、この食品ロスというのはという話をすれば、随分、話はまた変わった方向に行くのではないのかなというふうに思っております。

以上でございます。

○渡辺座長 ありがとうございます。

最後のお話は非常に共感する部分があって、コロナの影響で国際貿易がかなり落ちていて、それぞれの国が割と食糧を抱え込むという状況にあるわけで、国内での自給率というのが非常に低い日本としては、こんなに食糧、食品を無駄にしているのかというのが正に深刻な問題、国内問題としてこれからなっていくのではないかなと思います。中国も急に食品を無駄にしない、食べ残ししない運動を始めましたし、日本のこれからの考えたときにこの自給率の低い中で、捨てている場合ではないというのは、本当に痛感すべきことだと思います。ありがとうございます。

有元委員、お願いいたします。

○有元委員 私、今回からの参加なので過去のプロセスが分かっていない中なので、簡単に感想といったところで、お話をさせていただきますと、この4月から6月に関しましては、結構、コンビニエンスといったところで見ますと、非常に東京都心のオフィスが多いですので、非常に発注精度というのが非常に低くなったというか、予測がすごく難しい状況でした。したがって、結果として食品ロスが出るというのは発注見込みといったところにすごく影響がありましたので、なかなかまだ分析できていなくて、実態としての数値がまだ把握できておりません。

ただ、7月、8月となってきた中で、ある程度、お客さんが戻ってきてはいるものの、やはり東京都といったところでお話しさせていただきますと、やはり感染者数が非常に多くなっているといったところもございまして、非常にセンシティブになっているお客様も多くて、例えば、ファストフードを売るときに、例えば、おでんのような商品をイメージしていただければ分かりやすいと思うのですが、こういった商品に対して、やはりちょっと毛嫌いしている方も増えておまして、なかなかそれを売り切るための努力といったところがすぐにつながらないようなところも、これから冬に向けてさらに出てくるのかなと思ってちょっと不安ではあります。

また、一方で加工食品とか、お菓子とか、そういったところに関しては、センターのほうに在庫がある程度、多く残っている状況もございまして、そういったものに関しては、積極的に各社がフードバンク協会に寄贈したりとか、そういったところは進めております。ただ、これをやるにもメーカーの確認であったりとか、いろいろなリーガルチェックが必要で、思うようにあるものを素直に届けることができないといった障害も多々ありますので、こういったところは自治体とも連携しながら、可能な限り進めていきたいなというふうに考えております。

私からは、簡単ですが以上です。

○渡辺座長 ありがとうございます。

確かに、消費者が個包されていないものに対する抵抗ぶりというのは強くあるということで、コンビニもそうでしょうし、スーパーでも個包化が進んでいて、ラップの使用料が非常に増えたとか、コストがかかるとか、そんな話を先日、ある会議でも金丸委員からも聞いたところなのですけれども、金丸委員が退出されてしまいましたでしょうか。されちゃいましたかね。今の有元委員からの御指摘のことと関連させて理解したいと思います。ありがとうございます。

では、河野委員、清涼飲料連合会、河野委員、お願いいたします。

○河野委員 全国清涼飲料連合会の河野と申します。私、去年、途中から参加させていただいておまして、今までの議論の流れというのはすみません、もしかしたら理解していない部分があるかもしれませんが、御容赦ください。

食品ロス削減に向けた提言の概要の部分で、消費者編というところがあります。食品ロスって、約半分近くが家庭系から出ているという事実がある中で、消費者がやらなくてはいけないこと、やるべきこと、考えなくてはいけないことって何があるのだろうというふうに考えたときに、こちらに書かれていることというのは、行き場を失った食材のインターネットの販売、買物の前に冷蔵庫をチェックして必要な分だけ購入する。あと、持ち帰り文化を醸成していくという、この三つが主だというものですけれども、自分の家の冷蔵庫の中を見て、冷蔵庫の中に残っている食材から例えば、今日の夜の料理を考えるみたいな考え方というか、そういうのをもっと、そういう発想というのを推進していくようなことができる、単に冷蔵庫にずっと入って、食べられなくなって捨ててしまうみたいなものが減ってくることもあるのかなと。要は、消費者編のところを書くべきことというのが、もっとほかにもあるのではないのかなということちょっと思った次第です。

あともう一個は質問になるのですが、その上の提言3のフードサプライチェーン全体での商慣習の見直しのところで、赤字で「コロナ禍で更なる物流の効率化が求められる状況にあり」というのが追記されているのですけれども、こちらの書かれている意味というのは、事実があってこれは記載されているのかというのを御教示いただけるとありがたいなと思っております。

以上です。

○渡辺座長 ありがとうございます。

前半の買物、冷蔵庫の在庫管理のところは、確かにそのとおりだと思います。今も現状の提言の中にも買物に行く前には必ず在庫をチェックしてからとか、そういうような話はあるのですけれども、さらに御指摘された点を加えられれば、加えていただきたいと思います。あと、後半の方についてお願いします。

○宗野資源循環計画担当部長 委員、ありがとうございます。

物流の効率化というところなのですが、非常にさらっと書いていますけれども、我々の方で考えていたのは、いろいろな段階でサプライチェーン全体でやることもあるでしょうし、各段階で取り組むこともあると思うのですけれども、例えば、一番簡単なことと言えば、情報の共有化みたいな、やり方はいろいろあると思いますけれども、そ

ういったものなどを含めて、やはりそういうものが十分ではなくて、非効率の部分というものが今回のコロナで、別にこれは食のサプライチェーンだけじゃなくて、様々ないわゆる産業のサプライチェーンもあると思いますけれども、そういう中で、デジタル化ということで、急にそういうものが全部解決されると思っておりませんが、やり方はいろいろあると思いますけれども、効率化というものはさまざまな方法があると思いますけれども、そういうものに取り組んでいくべきだろうという意味で書いています。ちょっといろいろな意味にとれるかもしれないので、その辺については書き方を調整する必要があるかもしれません。

○河野委員 どうもありがとうございます。

○渡辺座長 はい。今のに付け加えますと、人が手がけた部分をロボットなど、自動機器で使えるように進んで、コロナのおかげというわけではないですけれども、コロナによってそうせざるを得ない部分があるので、それをさらに加速させていくというようなことも含まれるのかなと思います。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、清水俊樹委員、三菱食品、清水委員お願いいたします。

○清水（俊）委員 三菱食品の清水でございます。

感想というかあれなのですが、コロナの影響で今、小売業さんの買物に行くことが少し少なくなって客数減少、ただし、今、買上げ件数が上がっているというところで家庭内にストックも増えているというところで、私どもは食品卸売業というところにありますので、生活者、消費者の方々に食材を使いきる、こういう提案、生鮮も含めて、全部使い切って食品ロスをなくしていきましようという提案を続けております。

あと食品卸はメーカーさん等、小売業さんの間に入っていますので、先ほど出ました需要予測であったり、あとは3分の1、2分の1ルールのところを、メーカーさん、小売業さんと一緒になって取り組んでやっていかないといけないなというところがございます。

資料につきましては、先ほど、清水きよみ委員の方から出ました、コロナによる変化、今後起きてくるかと思っておりますので、このまま継続するのか、収束するのか、来ないかと思うのですが、第三波というところもありますので、その辺の内容がどうなっていくのかなと。このままの記載でいいのか、どうなのかなというところが気になったところでございます。

以上でございます。

○渡辺座長 ありがとうございます。

需要予測等の部分についてはまた、先ほど御指摘あった部分をつけ加えて補強することによってさせていただきたいと思っております。

関口委員、お願いします。吉野家ホールディングス、関口委員お願いします。

○関口委員 吉野家の関口でございます。聞こえますでしょうか。

○渡辺座長 はい、聞こえます。

○関口委員 今回コロナの件もあり、そちらについての視点も入れられ、また各事業者、消費者、行政等々のいろいろな視点から取組について書かれていて、非常に盛りだくさんになって、パーツパーツで見たときには、何をやっていこうというのは分かると思う

のですが、あまりにも多く盛り込んでいて、逆に何のためにやるのかというのが見えづらくなっているのではないかなというのをちょっと資料の構成の中で感じました。

例えばですが、本編の提言のところの4ページに、「ゼロエミッション東京」を実現するのだというような表現があると思うのですが、今日の会議の中でもお話が出ていたように、サステイナブルな視点を持っているのだよというようなお話もあったと思いますし、廃プラ問題等々あったと思うのですが、その辺が例えば、資料3の提言の概要のところの各主体の取組というのが書かれているのですが、それが結果、何につながるのだというような目標、どこを目指しているのだというような目標感がぱっと見で分かるような形になっていると、何のためにこういう活動をするのかというのがより分かりやすくなるのではないかなというのを少し感じました。

以上です。

○渡辺座長 。ありがとうございます。

いろいろなところに、ばらばら書かれていることをもうちょっとうまく整理して、今、コロナの状況などを踏まえながら、2030年に向けての何を実現しようとしているのかという、その辺が分かるような書き方の工夫をするということで、事務局に検討してもらおうと思います。ありがとうございます。

それでは、高取委員お願いいたします。

○高取委員 食産センター、味の素、高取でございます。

今回、初めて参加させていただくにあたって、こちらの提言書を拝見いたしまして、非常に多岐にわたるところを丁寧にまとめ上げられていらっしゃるなというふうに思いました。渡辺座長、事務局、委員の皆様、非常に準備をされてきたのだなというふうに印象を持っております。

私から、意見といいますか、1点だけお伝えしたいのですが、今回、2030年までに食品ロス半減ということ東京都としてコミットメントをされて、目標とされているというところがございますので、そこに向けて、今どこまで進捗しているのか、それが100%だったのが今70まで行っているのか、60まで行っているのかというところを、透明性を持って、都のほうから発信されるということが望ましいなというふうに思っております。こちらの提言書の中に盛り込むのは、ちょっと難しさがあるということかもしれませんので、次の推進計画の中にきっちりとして、そういった発信をするというようなところも盛り込んでいただけたらなというふうに思います。

資料4の4ページに、外食系が、外食産業から出てくるのが非常に多いと。次は家庭から出てくるのだよというようなところで、目で分かりますし、こういった数量がどのくらい減ってきているのか。都民の家庭の皆様も、自分の努力によってこう変わってきているというところが実感できる、そういったところでもあると思いますので、情報の発信、進捗の発信、そういったところをぜひお願いしたいなというふうに思います。

以上でございます。

○渡辺座長 お願いします。

○宗野資源循環計画担当部長 高取委員、ありがとうございました。

この提言をいただいたのち、計画の策定の際には、そういう数量について、きちんと分かる形で発信していくべきだという、まさにそのとおりでございまして、国でも毎年、

推計値を出しておるところでありますけれども、東京都でも調査を、国のデータなど、いろいろなデータを参考にしながら、東京都の51万トンというところをまず出したところでありますけれども、それを更新しながら、発信のほうは随時かけるような形にしていきたいというふうに思っております。ありがとうございました。

○高取委員 実態調査等は難しいところもあろうかと思っておりますけれども、実態に即した数字のほうが、よりその活動に連携しまするので、そちらも併せてよろしくお願いいたします。

○宗野部長 ありがとうございます。

○渡辺座長 ありがとうございます。

それでは、土井委員、お願いします。TABLE FOR TWO事務局長、土井委員お願いします。

○土井委員 TABLE FOR TWO事務局長の土井と申します。

今日は、初めて参加させていただいたのですけれども、前日に資料をいただいて読みましたけれども、皆さんがこれまでのすばらしいお話し合いをされて、これを作ってきたのだらうなというのがすごく分かりまして、よかったです。

弊法人は、アジアとアフリカの子供たちに給食を届けるという事業をやっているのですけれども、やはりコロナの中で、日本の方たちが今アフリカを支援している場合ではないとか、アジアの子供たちよりも日本が大変なのだからということや東日本大震災のときにも言われたのですけれども、ただ、コロナの中では、世界はつながっているのだということや皆さん感じられているのか、すごく応援してくださる、個人の寄附もすごく増えているような状況でして、本当にありがたいなと思っております。改めて、日本人のつながりというものをすごく意識をされているようになっているので、自分がこういうことをすると、こういういいことが起こるのだということが目に見えて分かるような形で、先ほど高取委員もおっしゃっていましたが、そういうふうに発信していただくと、もっとフードロスが進むのかなということやすごく感じました。

以上です。

○渡辺座長 ありがとうございます。

ぜひ、この提言を受けて、都の発信を強化していただくという、周りにつながっていけばいいなと思っております。

すみません。時間が大分、押してきて、皆さん退席を始められてしまいまして、申しわけありません。

ワタミの福井委員が退席をされるということで、チャットに書き込みをしていただきました。チャットのほうをごらんください。3点、御指摘があります。

①、一時産業側で流通に乗る前に発生している食品廃棄があること。今一度、皆様と共有したいところです。②、新しいライフスタイルに変わっていく真ただ中にある中だからこそ、食育の啓発に力を入れていきたいところです。③、今年の年末年始の宴会需要は確実に減少すると見込んでいます。人々が集い、会話や飲食を楽しみながら英気を養う豊かな食文化そのものを否定するのではなく、事業者と消費者が工夫をしていきたいです。

ということで、3点御指摘をいただいております。福井さんには大変失礼いたしましたし

た。

それでは、今、会場に藤田さん、いらっしゃるのですが、先に山田委員に発言をしていただきたいと思います。山田委員、お願いいたします。

○山田委員 山田です。聞こえますでしょうか。

○渡辺座長 はい、聞こえます。

○山田委員 どうもありがとうございました。

ドラッグストアは、食品の取扱いがまだまだ少ないところで、今後の部分として参考にさせていただきたいと思っております。

1点だけなのですが、協会の会員企業であるツルハドラッグさんが、実証実験ということで、フードロスのほうについても1店舗で実証実験を始めています。実際に、ノーフードロスという株式会社みなとくさんというところがやっているアプリのクーポンで、そのクーポンで寄附をできるようなものも、ドラッグストア業界としては、少しずつではありますが、取組を始めているというところで情報の提供だけはさせていただきます。ありがとうございました。

○渡辺座長 ありがとうございます。

ドラッグストアさんもそういった取組を始めている。社会の動きの中で、敏感にそういう動きが出てきて対応されているということだと思いますので、さらに日本チェーンドラッグストア協会さんの中で、知見が広まっていくといいなというふうに思います。ありがとうございます。

それでは、藤田委員、お願いいたします。

○藤田委員 ありがとうございます。よろしいですか。

いろいろ、今日も聞かせていただいて、こういうことを皆さん、努力なさっているのだなと思ったのですが、消費者として、買物に行くときはまず冷蔵庫の中を確かめて、それから買物に行くのです。そのときは必ずマイバッグを持って行って、必要な分だけを買うようにしております。

例えば、皿盛りは安いのですが、皿盛りの量が使いきれぬかどうか考えてから買います。買ったものは傷んでしまって捨てるということのないように使わなければいけないので、だから買い過ぎないとか、作り過ぎないということが大事ですね。ごみを出すときは、きちんと分別して出しております。

この食品ロスの会議に出るようになって、自分が今までいかにのほほんと、ぼうっと消費者をしていたかというのが分かってきたような気がして、自分の意識がかなり変わったような気がします。何一つとっても生産者の方、それから卸売業者、それから小売業者の皆さんのたくさんの努力があって、私たち消費者の生活が成り立っているのだなというのを改めて思って感謝して、物を買うようにしております。持ち帰りはできるだけやっていきたいので、もし出かけるときに何か食事するのが分かるときは、空きパックを持っていくようにしております。そうですね。そんなことですね。失礼します。

○渡辺座長 ありがとうございます。

花澤委員、御出席ということですか。大変、失礼しました。国分グループ本社、花澤委員。大変失礼いたしました。お願いいたします。

○花澤委員 日本加工食品卸協会国分の花澤です。

食品ロス削減は、企業の意識だけではなく、生活者一人一人の行動にどう落とし込むかがポイントだと思っています。この提言が今後、都としての具体的な指針計画に落とし込む作業に反映されていくと思いますけれども、先ほど、知事の発言の影響が大きいとのお話がありましたが、推進計画が完成して何らかの形で発表する際には、具体策の発表の仕方を工夫して、都民一人一人の課題として認識してもらえそうな発言、発表にしていいただければと思います。

以上です。

○渡辺座長 ありがとうございます。

以上で一通り、委員の皆様からの発言をいただきました。いただいた御意見について、可能な限り、事務局の次の用意する原案に反映させていただきたいというふうに考えております。

本日の議題、以上なのですけれども、さらに御発言ある方いらっしゃるでしょうか。よろしいですか。時間も過ぎてしまいました。大変申しわけありません。

最後に事務局から連絡事項をお願いいたします。

○茂野資源循環計画担当課長 本日も熱心に御議論賜りましてありがとうございます。食品ロス削減に向けた提言につきましては、本日いただきました様々な御意見を反映させまして、次回予定をしております10月下旬の会議までに取りまとめてまいります。

また、本日御出席いただけなかった委員の方や追加の御意見につきましては、事務局までメールにて御連絡をしていただければと思います。

次回の会議の日程調整、また議題の詳細につきましては調整の上、委員の皆様にご連絡を差し上げる予定でございます。

事務局からは以上でございます。

○渡辺座長 はい。ありがとうございます。

それでは、よろしいでしょうか。これで「第9回東京都食品ロスパートナーシップ会議」を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。

(午後 3時06分 閉会)